

調号

調号について

その楽曲が
どの「調(キー)」で演奏されるものなのかを表す記号が
「調号(Key Signature)」です。

調を決定づけるのは「音階」。

Cメジャースケールの上に成り立つ楽曲なら「Cメジャーキー」
Aマイナースケールの上に成り立つ楽曲ならば「Aマイナーキー」
ということになります。

調号の役割

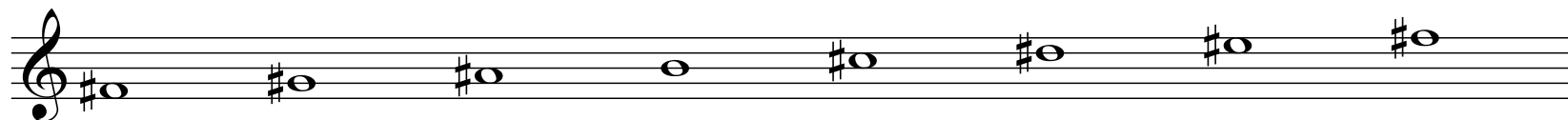
#やbがいくつも並ぶキーの場合
それらを臨時記号として記譜してしまうと
ごちゃごちゃして読みにくい譜面になってしまいます。

「調号」は、そのような問題を解決してくれる便利なものです。

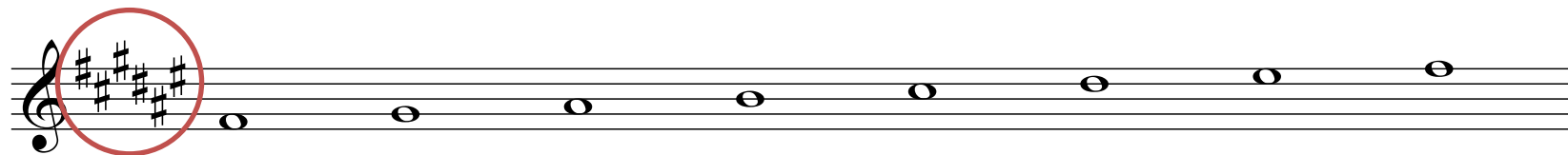
そのキーで必要な#やbを
各段の頭にあらかじめ記載しておくことで
楽譜が読みやすくなることはもちろん
その楽曲がどのキーなのかをすぐに判別することができます。

調号とは？

そのキーに必要なシャープやフラットを臨時記号で書いた場合



調号としてまとめてしまえばスッキリ！！



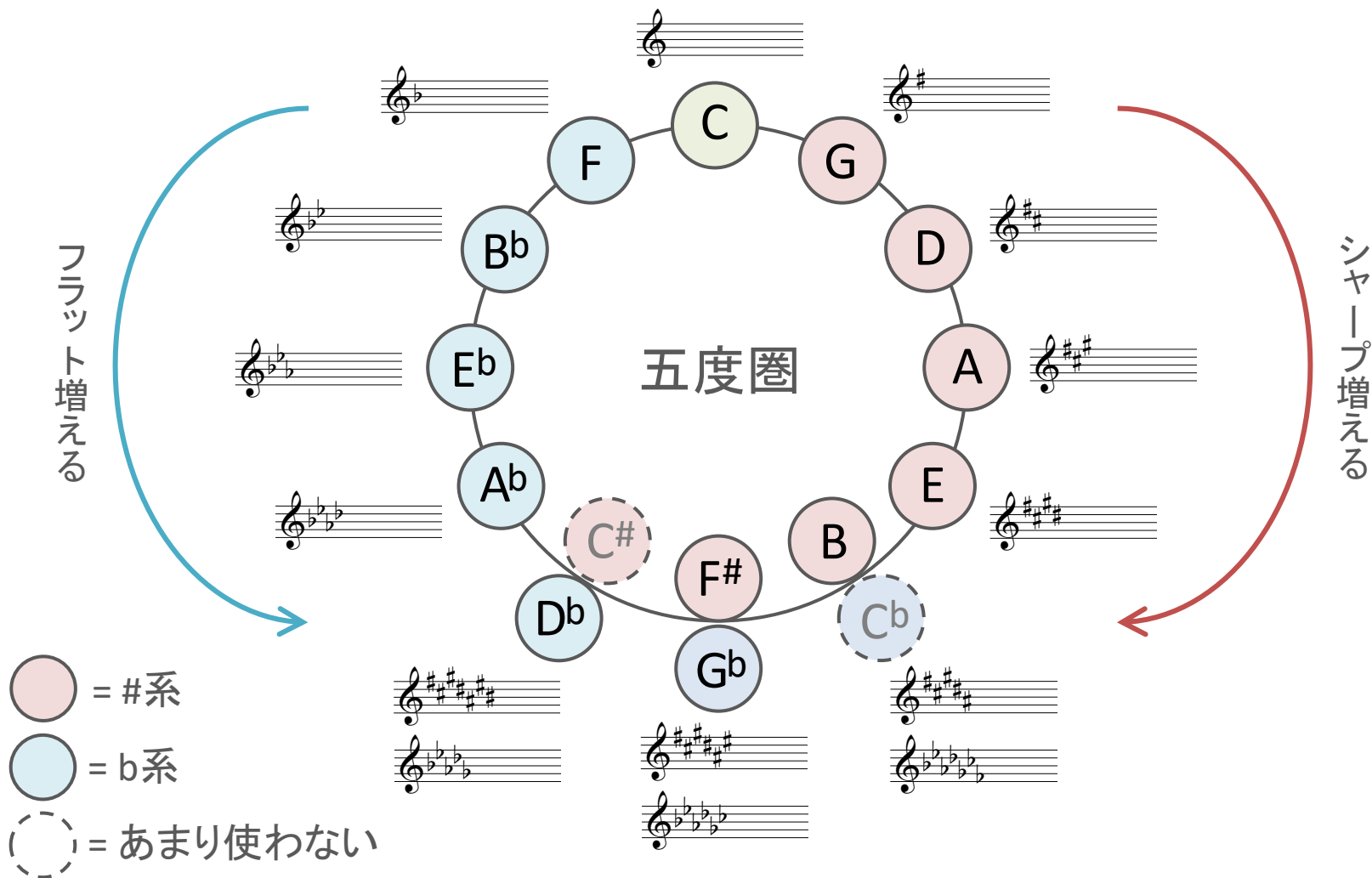
さまざまな調と調号

楽曲のキーは、土台となるスケールによって決定します。
したがって、スケールの主音(=ルート)の数だけ
「調」が存在するということになります。

ルートとなる音は全部で12個(12音分)あり
それぞれに「メジャー」と「マイナー」の
合計24個のキーが存在しますが、丸暗記は不要です。

これからご紹介する「五度圏」という考え方さえ理解できれば
すべての調を簡単に理解することができます。

五度圏



調号の覚え方

■ シャープ系の場合：もっとも右側にあるシャープが「シ」を指している

Gメジャー（Eマイナー）



Dメジャー（Bマイナー）



Aメジャー（F#マイナー）

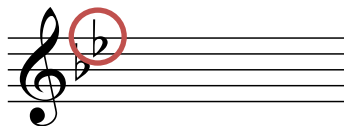


■ フラット系の場合：もっとも右側にあるフラットが「ファ」を指している

Fメジャー（Dマイナー）



Bbメジャー（Gマイナー）



Ebメジャー（Cマイナー）

